

Regent

SEVEN SEAS CRUISES®

リージェントセブンシーズクルーズが 154 泊の 2026 年ワールドクルーズを発表

6 大陸 41 か国を巡るリージェント史上最長の世界一周クルーズは
無料地上観光も充実の 431 コース



東京 2023 年 3 月 16 日 - ラグジュアリークルーズで世界を牽引するリージェントセブンシーズクルーズが、エレガントなセブンシーズ マリナーで行く 2026 年ワールドクルーズを発表。出航は 1 月 10 日。好奇心旺盛かつ冒険好きな旅行者の期待に応え、これまでで最も長い日程となっています。

リージェントの 2026 年ワールドクルーズ「センス・オブ・アドベンチャー」はフロリダ州マイアミ発着の周遊クルーズ。154 泊で 3 大洋をまたにかけて 39,722 海里を走破し、南北アメリカ、南太平洋、オーストラリアとニュージーランド、アジア、アフリカ、ヨーロッパを含む 6 大陸、41 か国、77 寄港地を訪れます。リージェント初寄港としては、ニューカレドニア群島・ロイヤルティ諸島のリファー島とマレ島、粗削りな自然が残るインドネシアのワインガブ(スンバ島)が加わります。

Regent

SEVEN SEAS CRUISES®

リージェント セブンシーズクルーズ社長アンドレア・デマルコは、「私共のお客様はより遠くへ、より長い期間旅行したいと望んでおられます。そこで2026年には最新かつ最長のワールドクルーズを企画いたしました。センス・オブ・アドベンチャーはまさにそうしたご要望にお応えするもので、154泊にわたって世界の果ての果てまで旅して忘れられない体験をしていただけます。さらに極上のパーソナルサービス、完璧なホスピタリティ、全室スイート、全室バルコニー付きの豪華で快適な客室、そしてあらゆる贅沢を提供する豊富な無料サービスをお楽しみいただけます」としています。

世界のもっとも注目に値するデスティネーションを訪れ、他の追従を許さない没入感を味わえることで知られるリージェントが、生涯の思い出作りのため満を持して厳選のうえ作り上げた寄港地体験は、431の無料地上観光に加え、仏領ポリネシアのボラボラ、オーストラリアのダーウィン、ナミビアのウォルビスベイを含む16港でのオーバーナイトステイでゆっくりと探訪が可能という充実の内容。さらにディープな文化探訪として、ハワイのホノルルで「A Taste of History at the Battleship Missouri」、インドネシアのバリで「Across the Archipelago Dinner at Garuda Wisnu Kencana」、リスボンで「Passport to Portuguese Flavor at Convento do Beato」の3ツアーが用意されています。



ワールドクルーズ中に訪れることができるユネスコ世界遺産はセイシエルのプラランから行くメ溪谷自然保護区、南アフリカのケープタウンから行くロベン島、オーストラリアのケアンズから行くグレート・バリア・リーフを含む47か所。



セブンシーズ マリナー乗船前には前夜祭としてフロリダ州マイアミのラグジュアリーホテルに 1 泊してイベントを楽しみます。

154 泊クルーズの料金はラグジュアリーなデラックスベランダスイート利用で 1 名\$94,999 から。贅を極めたマスタースイート利用で 1 名\$266,499。

リージェントのワールドクルーズには独自サービスとして、スペシャリティレストランやテラスレストランでの美食、高級ワインやスピリッツにエンターテイメント、ホテルとクルーズ船間の移動が含まれます。また、安全安心の旅を楽しめるよう船上医療サービス、ドライクリーニングとアイロンがけを含む無制限のバレーランドリー、スイート毎の通話料金、記念のギフト、\$600 のオンボードクレジット、寄港地での3回のエクスクルーシブなイベントが含まれています。パーソナルサービス、エレガントなレストランでの美食、洗練のバーやラウンジでのプレミアムドリンク、見ごたえたっぷりのエンターテイメントでリージェントは他の追随を許さない名声を確立しています。

2026 年ワールドクルーズの予約開始は 2023 年 3 月 22 日。事前登録は 3 月 13 日から [RSSC.com/2026-World-Cruise](https://rssc.com/2026-World-Cruise) でスタート、詳細情報の公開と共に受付開始。2026 年ワールドクルーズの動画は[こちら](#)から。

数字で見る 2026 年ワールドクルーズ:

- 39,722 海里
- 431 の無料地上観光
- 77 寄港
- 47 のユネスコ世界遺産
- 41 か国
- 16 オーバーナイトステイ
- 15 の海、海峡、湾、運河を通過
- 6 大陸
- 3 大洋
- 3 港に初寄港



2026年ワールドクルーズのゲストのための3つの新地上体験:

A Taste of History at the Battleship Missouri-戦艦ミズーリで歴史にふれる

2026年1月31日 - ハワイ、ホノルル

歴史的戦艦ミズーリの艦内を訪れ、第二次世界大戦の日本降伏から今日に至るまでに同戦艦が乗り越えてきた出来事を見て、感じて、学ぶことができます。船上では、多彩な味覚の影響を受けて長年の間に作り上げられてきた、南国ならではの特徴ある料理をはじめとする活気に満ちたハワイの文化を堪能できます。

Across the Archipelago Dinner at Garuda Wisnu Kencana-ガルダウィスヌケンチャナで列島横断ディナー

2026年3月23日 - インドネシア、バリ

自然美で知られるバリ、中でもガルダ ウィスヌ ケンチャナはその代表格。ロータスポンドで行われるワールドクルーズのダイニングイベントは魔法のように美しい公園で行われます。周囲を岩壁で囲まれ豊かな緑に彩られた中、この地で培われてきた見事な文化見本ともいえるずらりと居並ぶ料理の数々と共にライブショーを見ながら、感動的な列島横断の旅を体験します。

Passport to Portuguese Flavor at Convento do Beato-ベアト修道院でポルトガルの味へのパスポート

2026年6月1日 - ポルトガル、リスボン

海辺の町の特別イベントでポルトガルのリズムを感じて美しさを味わいます。居ながらにしてポルトガルの異なる5つの地方の特産ワイン、メイン料理、特産チーズ、農産物、至福のデザートまですべてを味わえる美食の旅に出かけます。美しい会場の雰囲気での一夜をさらに盛り上げるのはライブによるファドのささやき。

セブンシーズ マリナー

セブンシーズ マリナーは世界初の全室スイート、全室バルコニー付きのラグジュアリークルーズ船。イタリア産大理石、クリスタルのシャンデリア、現代アートワークなどを配した洗練とゆとりあるコンテンポラリースタイルの内装が特徴です。459名の乗員が696名の乗客を高度なパーソナルサービスでもてなします。

美しくデザインされたレストランは、最高品質のファインダイニングを提供。定番のステーキハウス、現代フレンチ、本場イタリア料理に加え、コンパスローズでは好みのメニューを組み立てることができます。探訪で疲れた体を休めるのに最適な4か所のシックなバーやラウンジを含むパブリックスペースにはくつろぎの雰囲気が充満しています。





上品な設えの各スイートルームには中綿入りレザー製ヘッドボードのエリートスランバーベッド、シッティングエリアには快適なソファ、アクセントテーブル、アートワークが備わっています。全スイートに専用バルコニーと大理石のアクセントが効いたゆったりサイズのバスルームがあり、アメニティはロクシタンまたはゲラン。

リージェント セブンシーズクルーズについて

リージェント セブンシーズクルーズは、30年にわたりラグジュアリーを求めるトラベラーに「An Unrivaled Experience™-比類なき体験」を提供しています。ゲスト数は最大746名、広々としたスタイリッシュなクルーズ船 - セブンシーズ エクスプローラー、セブンシーズ マリナー、セブンシーズ ナビゲーター、セブンシーズ スプレnder、セブンシーズ ボイジャー、そして2023年に加わるセブンシーズ グランデュアー - が世界で最もラグジュアリーなクルーズ船団を形成、地球の隅々にいたる500以上のイマーシブなデスティネーションを巡ります。「Unrivaled Space at Sea™比類なき洋上空間」を誇る豪華なオールスイートの客室はそのほとんどにプライベートバルコニーを備え、贅を尽くしたパブリックエリアや広大なアウトドアスペースも含めて船内では十二分にパーソナライズされたサービスが提供されます。さらに真にオールインクルーシブのクルーズラインをうたうリージェント セブンシーズクルーズならではのサービスとして、すべての寄港地で追加料金なしかつ無制限で地上ツアーに参加できます。クルーズ料金にはそのほか、スペシャリティレストランや屋外ダイニングを含む様々なレストランでの美食、特選ワインとスピリッツ、エンターテイメント、無制限のインターネットアクセス、無料のバレーランドリー、前払いチップ、コンシェルジュレベル以上のスイートにはクルーズ前泊1泊の宿泊と港への送迎パッケージ、以上全てが含まれています。詳しくは <https://jp.rssc.com/>

【発行元】リージェント セブンシーズ クルーズ PR 株式会社 Flair